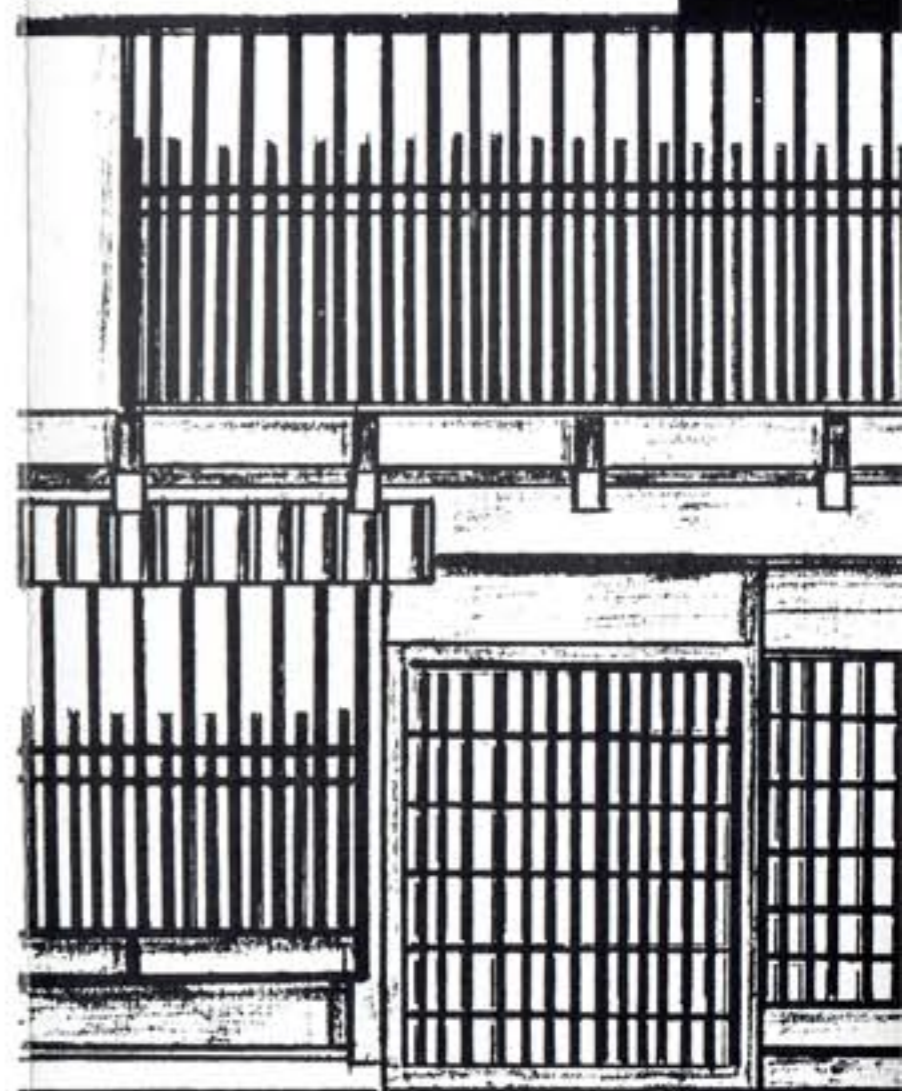


中山道
小田井宿

毎年8月16日は
小田井宿祭り

小田井宿に伝わる
拝領人形



小田井宿には、皇女和宮様より拝領のお人形が伝えられている。皇女和宮様は第14代將軍徳川家茂に御降嫁のため、江戸へ向われた折小田井宿にお立寄りなされ、ご昼食を召されたといわれています。お人形は、その時に賜ったものといわれています。

■問い合わせ先



御代田町役場 商工観光係
〒389-02 長野県北佐久郡御代田町大字御代田2464-2
TEL (0267) 32-3111 (内線 31)
FAX (0267) 32-3929

江戸日本橋より第二十一宿、四十里十四丁、京へ九十五里八丁。
文久元年、皇女和宮様、御立寄り。

■上間屋・下間屋

小田井宿は、江戸時代荷造りの中継が盛んであった。そのため、他の宿場と比べて珍らしく間屋が2軒ある。それぞれを上(かみ)の間屋、下(しも)の間屋という。



■用水

現在用水は宿場の東側を流れるが、宿場当時は街道中央を流れていた。街道を往来する人馬にとっては、命の水ともなっていた。

■小田井城

小田井宿より東南に位置し、大字城(じょう)という所にあった。小田井城は大永元年(1521年)小田井又六が築城し、天文13年(1544年)12月15日、武田信玄に滅され23年の短命の城であった。

■本陣・脇本陣



小田井宿には本陣、脇本陣があった。ここに宿泊された最初は、明暦2年(1656年)

4月の松平伊予守の御小休である。小田井宿は、小さな宿であったので大名行列は隣宿へお願いしていた。小田井宿の特色は、明暦3年に伏見宮家の姫宮浅野宮、文久元年(1861年)皇女和宮の御休泊、御昼食をされたのを始め、宮家、公家方の姫君達の御休泊に利用されており、一名「姫の宿」ともいわれたという。

■長倉・諏訪神社

天正16年(1588年)小田井宿町割に伴い上小田井より現在の所へ移された。正式の名称は長倉神社、諏訪神社合殿(ごうてん)と呼ばれ、2つの神社が合体されている。



■宝珠院

天正18年(1590年)上小田井より現地へ移転。古くは「飯玉山・慈眼寺・宝珠院」と称したものであります。境内の赤松は、町教育委員会指定の天然記念物。

■樹形

樹形とは宿場の防備を目的としたもので、小田井宿の場合は道を曲げたもので、東と西に樹形が今も残る。

